

初期臨床研修プログラム:整形外科

コース責任者:渡部公正 指導医:渡部公正、相場知宏

コースの位置づけ:必修科として0ヶ月、選択科として1か月から

I 一般目標(GIO:General Instructional Objective)

臨床医として整形外科医の役割を理解し、プライマリケアに必要とされる基本的知識と診察手技、技術を身につける。

II 行動目標(SBOs:Specific Behavioral Objectives)

- 1) 運動器疾患に関する基本的知識を身につける
 - (1) 運動器の解剖を理解する
 - (2) 代表的な運動器疾患について病態を理解する
- 2) 診断と治療に必要な問題解決方法を習得する
 - (1) 患者から病歴を聴取して適切に記載することができる
 - (2) 診断のために必要な身体所見をとることができる
 - (3) 診断のために必要な検査をオーダーすることができる
- 3) 整形外科的検査法の理論と評価法を習得する
 - (1) 単純 X 線
 - (2) CT
 - (3) MRI
 - (4) 造影検査 (脊髄造影、神経根造影、関節造影など)
 - (5) 電気生理学的検査
 - (6) 骨密度検査
 - (7) 核医学的検査
- 4) 整形外科の基本的処置・治療を行うことができる
 - (1) 整形外科領域における主な薬剤の用途を理解して使用することができる
 - (2) 創傷処置 (創部の洗浄・消毒、創傷被覆材の使用、デブリードマン、縫合など) を適切に行うことができる
 - (3) 関節穿刺、関節内注射、腱鞘内注射を行うことができる
 - (4) 各種ブロック (仙骨硬膜外ブロック、神経根ブロックなど) を行うことができる
 - (5) 骨折に対する徒手整復、ギプスやシーネなどによる固定を行うことができる
 - (6) 関節脱臼や肘内障の整復を行うことができる
 - (7) 牽引 (直達牽引、介達牽引) を行うことができる
 - (8) リハビリテーションのオーダーをすることができる

Ⅲ 学習方略(Learning Strategy)

必須事項：腰痛、関節痛、歩行障害、四肢のしびれを有する患者を診療し、骨折、関節・靭帯の損傷および障害、骨粗鬆症、脊椎障害、関節リウマチを経験する。

外来診療：指導医・上級医と共に診療に参加する。日常多くみられる疾患についての知識を深めるとともに、身体所見の取り方、検査の選択・評価、治療について学ぶ。自ら患者の病歴を聴取して検査のオーダーを行い、指導医と共に評価して治療にあたる。

病棟診療：指導医の担当する患者を中心に受持ち患者の診断・治療などを行い、診療録の記載をする。原則として病棟回診を指導医・上級医と共に毎日行う。

看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、ソーシャルワーカーなど他職種とのスタッフと共にリハビリカンファレンスに参加する。

手術業務：手術施行例においては助手として手術に参加する。当該疾患についての基本的事項、手術適応、手術法などを学ぶ。縫合などの処置を指導医・上級医の指導のもとで行う。

Ⅳ 学習評価(Ev:Evaluation)

知識：診療録、レポート、プレゼンテーション、EPOC 評価者：指導医・上級医

技能：診察法、手技に関して観察記録、スケールにて評価 評価者：指導医・上級医

態度：観察記録評価 評価者：指導医・上級医・コメディカルスタッフ

*当科でのレポート作成が適している項目：

腰痛、関節痛、骨粗鬆症に伴う骨折、神経障害

整形外科研修における週間予定

*月・水・金曜日：8：20 5階南病棟に集合

*火・木曜日：8：30 整形外科外来に集合

曜日	午前	午後
月	外来診療	13：30 リハビリカンファレンス、病棟診療、(手術)
火	病棟診療 (+外来診療)、(手術)	手術、病棟診療
水	外来診療	手術、病棟診療
木	病棟診療 (+外来診療)、(手術)	手術、病棟診療
金	外来診療	手術、病棟診療

整形外科では研修に関する希望を聞き、各研修医の希望に沿った研修ができるように配慮します。